

第11期 松戸市緑推進委員会

第5回委員会

1. 日時 令和3年5月13日(木)午後2:00~4:00

2. 場所 松戸市役所 市民サロン (新館5階)

3. 出席者

○緑推進委員

柳井重人・平岡 考・小谷幸司・高橋 清・高橋盛男
石川静枝・河合直志・上野義介・藤田 隆・狭間明美

○松戸市

齋藤博紀 (街づくり部審議監)
布施 優 (公園緑地課課長)
白石義之 (21世紀の森と広場管理事務所所長)
竹内茂樹 (公園緑地課課長補佐)
大塚 崇 (21世紀の森と広場管理事務所補佐)
田辺久人 (みどりと花の基金事務局長)

○兼事務局(みどりと花の課)

岸 秀一(課長)・三末容央(専門監)・木村高德(補佐)・岩田 昇(主査)
和宇慶さやか(主任技師)

○LAU 公共施設研究所(松戸市緑の基本計画策定委託受託者)

牧野

○傍聴 1名

事務局より本委員会の成立について、委員15人中10名の出席により成立している旨報告あり。

4. 議事次第

1 開会

1 議事

- 1) 議事要録の確認について
- 2) 緑の基本計画の策定について
- 3) みどりのサロン部会について
- 4) その他

1 連絡事項等

1 閉会

人事異動に伴う関係職員紹介

- ・齋藤博紀 街づくり部審議官(国土交通省)
- ・白石義之 21世紀の森と広場管理事務所所長
- ・木村高德 みどりと花の課課長補佐
- ・岩田 昇 みどりと花の課主査

議事 1) 議事要録の確認について

会長

事前配布した議事要録に意見はあるか。

委員

議事要録の P.5 2 行目 基本方針 1 では「暮らしを支えるみどりをつくる」は「暮らしを支えるみどりを築く」、また、3 行目 基本方針 2 では「ワンランク上のみどりを築く」は「ワンランク上のみどりをつくる」ではないか。

事務局

訂正します。

会長

指摘部分の修正をし、他になければ修正をもって議事要録としてよいか。

— 了承 —

議事 2) 基本計画の策定について

事務局

先ずお手元の資料を確認させていただきます。

資料 1 として、「第 4 回緑推進委員会における主な意見への対応についての考え方」につきまして表で示した資料です。次に資料 2 として、「第 11 期松戸市緑推進委員会及びみどりのサロン部会の方向性について」です。他に、後ほど使用するカラーの両面印刷のプリント。

以上が本日の配付資料です。過不足がございましたらおっしゃってください。

会長

事務局より説明をお願いします。

事務局

それでは、議案 2) の緑の基本計画の策定についてご説明いたします。

前回の委員会までに、緑の基本計画についての議論は一先ず終えていることから、本日の基本計画についての議題につきましては、前回いただいた委員の皆さまからの意見について、どのように反映させるのかのご報告が主になります。いくつかのご意見をいただきましたが、主な意見として 5 つの項目について、対応方針を簡単にご説明いたします。

先ず、1 つ目の「みどりの現況」についてです。本市のみどりの現況として、原案の中で松戸の特徴的な地形を断面にして写真と簡単なコメントを合わせて記載しております。この写真とコメントについて、緑の機能・役割がわかるようにできないかというご意見でした。これについて検討した結果、例えば、ここに修正例として斜面林をあげておりますが、修正前のコメント「入り組んだ地形が見られ、所々に斜面林が残っています。」となっていたものを、「江戸川沿いの低地と下総台地の境に残る斜面林は、本市の豊かな景観を構成する貴重なみどりとなっています。」と、みどりの機能がわかるようなコメントに修正するものでございます。原案で元々そのような書き方になっているものもありますが、他のコメントにつきましても可能な限り機能・役割がわかるような書き込み方に修正してまいります。

次に 2 つ目の「みどりの配置方針図」についてです。この配置方針図につきましては、凡例にある項目の位置づけがわかりづらい。また里やま活動は松戸らしさのある施策なので目立たせては？というご意見がありました。これにつきましては、現在都市計画マスタープランとの整合も

含め条件を整理し、凡例表記も合わせ今後修正してまいります。

次に3つ目の「基本方針と目標」についてです。前段の目標設定と、重点施策の目標設定の位置づけがあいまいなのでは？というご意見、また数値で示す目標は現状値があった方がいいとのご意見でした。これにつきましては、前回説明不足だったこともあります。前段の目標設定につきましては、それ以降の方針1～4までの方針が少しずつ実現していく中で、こんな成果が見えてくるのでは？ということで、少し抽象的な目標を設定しております。それに対し、重要施策については、より具体的な施策ベースでの目標設定となっております。また目標数値がある場合につきましては、可能な限り現状値も書き加えたいと考えております。

次に4つ目の基本方針4の「働く」のライフスタイルのイメージについて、みどりが働く場になり、そこに雇用が生まれるような視点がほしいというご意見でした。これについては、新たに「みどりを生かした新たなビジネスにより、若い人が活躍できる場が生まれ、みどりのあるライフスタイルを支えます。」という記述を追加する予定です。

最後にグリーンインフラについて、千葉大学内にレインガーデンができたので載せてはどうかとのご意見がございました。これにつきましては写真と合わせ記載してまいります。今の段階では基本方針2-5の「事業所や団地のみどりを活用する(1)みどりのストックの活用」に入れさせていただきたいと考えております。これにつきましては、ストックの活用ということで、同じく千葉大学には、他にもイギリス式庭園等の見どころがございますので、こうしたストックも合わせて記載できたらと考えております。こちらについては後日先生にご相談させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。以上となります

会長

前回出た意見に対応する考え方について意見はないか。

委員

この計画はHP等に載り、パブリックコメントを求めることになるのか。

事務局

パブリックコメントにかける段階で計画案を載せることになる。

今の段階で基本計画は原案の状態であり、今後関係各課、特に「都市計画マスタープラン」との整合が大事な部分だが、その庁内調整に時間を頂き、調整後パブリックコメントをいただく前に素案として仕上げ、その過程で委員会での意見を合わせて修正をする。素案ができるタイミングは早くても9月下旬頃であり、そのタイミングで委員会において説明ができると考えている。

会長

委員の意見、市民の意見が反映されるのかを心配されているのではないかとと思うが、9月の緑推進委員会で意見できるチャンスがあり、その後素案が確定されパブリックコメントにかけるという進み方。

委員

作成のご苦労は大変だと思うが、一市民として、このような資料がHP上に載せられても、読むのは難しいのではないかとと思う。

会長

よく読んでもらうために、意見のもらい方や概要版にするなど方法は考えることになるだろう。

事務局

できるだけ多くの方に見てほしいので、HP掲載時に検討をする。

委員

以前の議論で基本計画は行政内部で共有する計画としてあるが、市民に分かり易くするために、これまでは概要版や HP にアクセスできるようにしている。絵本仕立てを提案したことがあったが、策定までにそのような検討をしてはどうか。

会長

出し方について検討をしてもよいと思う。「緑の基本計画」の全てを網羅しながら、取り敢えずはエッセンスを伝えるための見やすい附属資料を出す工夫は必要。概要版では味も素っ気もなくなる。「今回の緑の基本計画は、ここが変わります」的なメッセージがうまく伝わるようにしたい。この議論は継続したい。

「緑の基本計画」における、「2 みどりの配置方針図と 3 基本方針と目標」は骨格となる部分なのできちんと入れてほしい。

議論の中で「2つの目標値が分かりにくい」とあったが、説明をしなければ分からないような表現は避けて、計画書を見れば分かる・伝わるものにしてほしい。

議事 3) みどりのサロン部会について

会長

事務局より説明をお願いします。

事務局

それでは、議事 3) のみどりのサロン部会についてです。第 11 期委員会では、これまで緑の基本計画についての審議を行ってまいりましたが、原案に対する意見の聴取については、令和 3 年 3 月 26 日の委員会で一先ず終えております。

よって本日の委員会においては、今後の委員会及びその部会活動であります「みどりのサロン部会」の方向性を見出すための議論をお願いしたいと思っております。

議論をお願いさせていただくにあたり、資料-2 で経過等をまとめてございますので、申し訳ございませんが、今から 3 分程度お時間を設けますので、ご一読をお願いできますでしょうか。よろしく願いいたします。

——— 各自資料-2 を読む ———

事務局

よろしいでしょうか。

資料の最後の方に書かせていただきましたが、基本計画のパブリックコメントまでに、今日も含め、おおよそ 3 回の委員会が予定されています。その委員会におきましては、前回の委員会での意見、また今日までに柳井会長に相談させていただいた内容を踏まえまして、みどりの基本計画の策定後に速やかに計画の実現に向けた作業を行うための準備期間として、現在サロン部会で検討されている「ひと・みどり・まちをつなぐプラットフォーム」についての議論を、基本的にはサロン部会の進捗に合わせて進めていただければと考えております。なお A4 カラーの資料は、サロン部会座長作成の里やま活動のデータベース資料となっています。

会長

緑の基本計画の議論は一旦終了し、次は庁内調整とパブリックコメントの素案待ちの段階となる。それまでの 3 回程度の緑推進委員会では、来春に策定される基本計画を動かし、「市民力」

のパワーアップをするためにも重要な「プラットフォーム」についての議論をしてはどうか。

委員

先ほどの会長発言の、「基本計画の骨格となる配置方針と基本方針は、説明がなくても見れば分かるように、伝わるようにしてほしい。」はかなり難しい要求。目を向けてもらうまで、いろいろなレイヤーを出して行って、ようやく見てもらえるようになる。

今期のサロン部会では、「みどりの活動の見える化」と「みどりの資産を使ってもらえるようにすること」がテーマであり、そのための工夫をする。そのために「プラットフォーム」として情報を発信する仕組みが必要で、データベースはその一つ。例えば市内のボランティアデータを活用しながら、松戸市内の物理的・人的資産を有効に使い、保全技術を継続させる。

データベースの 3 種類の情報として、1 つ目は基礎情報、次に位置情報、その次は実際に使ってもらう時に団体間・活動間をつなぎ合わせるマッチングの情報をいくつかの層として整理をする。添付の A4 カラー資料は基礎的に出していく情報を整理しホームページをイメージしてつくってみた。必要な情報として、まずはフロントページに各団体の情報、裏面は実際に使ってもらうための事例として、まちづくり交流室にインターンで参加していた大島さんのレポートを整理して載せた。これまでの里やま活動団体の情報は、活動場所と活動日と代表者を載せていたが、オープンフォレスト in 松戸のガイドブックではもう少し詳しい。また、各森にキャラクターがいてキャッチフレーズで伝わっていくようになっている。例えば「囲いやまの森」であれば、次の世代の子供たちに親しめる森にしてほしいというオーナーの意向が発想のテーマとなり森の将来像となっているが、その森が「どんな森で何を目指しているか」「地域や他の市民団体とどんな繋がりを持っているか」それぞれの森独自のものをコンパクトにつくっている。里やま活動ではオープンフォレストのガイドブックも充実しているのでアウトプットすることも難しくないのではないか。

会長

サロン部会では「動き出すための準備」として「ひと・みどり・まちをつなぐプラットフォーム」の議論を進めて行ってよいか。また委員会では、このサロン部会での議論の進捗に応じて議論を深めていくことにしてよいか。

— 了承 —

会長

資料-2にある、

- ・まちづくりサイドのニーズやつなぎ手は多い
- ・ストーリーをつくる人が必要
- ・結びつける機能・組織は小さくてよい。
- ・使えるフィールドやスキルのある人材の情報を整理・管理して発信していくことが必要。
- ・事業ベースの検討が必要。

を委員会で共有する認識として、今後どのような議論を進めていくか。

委員

経験上、プラットフォームは枠をつくってできるものではない。実際に動きながら組み立ていくものであり、計画案にある施策のひとつでも動かしていくことから始めるイメージでいいのではないか。

基礎データは早く発信することが重要だが、その際の情報の発信は、何を誰にとというターゲットの考え方が必要。

先ずはみどりが好きな人がコアなターゲットかもしれないが、あまりみどりに関心が無い人を拾ってボトムアップするには、全く違ったコンテンツやツールが必要になる。

委員

みどりとに関わりには多くの目的があり、「つくる」「楽しむ」「関わる」「アクション」「アジャスト」「維持する」「稼ぐ」「イベントで人をつなげる」「管理・保全」のようなレイヤーを整理すると、委員の意見にあったターゲットが見える。その整理が委員の意見のように、先ずマスターデータがあり、次に活動事例や実績、次に継手でつながることで相乗的な効果が生まれる。「つくる」「楽しむ」「アクション」「アジャスト」「関わる」などの細分化したレイヤーで情報発信の仕方をつくっていききたい。

委員

自分なりに整理をしようと HP 形式でつくってみたが、これでは使えないことはわかっている。小谷委員の意見のように、ここから切り出していないといけない。フロントはこれでよいが、いろいろな情報を網羅することではなく、リアルなプロジェクトと繋げること。まだどこが入口で何がキーワードになるかは手探り。

里やま応援団は異種のグループと繋がることを進めていて、先日はお寺の境内にキッチンカーを入れ駄菓子屋をやっていたが、これはすぐにもできる。

委員

子育て、孤立をなくす活動の一環として、屋内の活動に制約がある中、お寺の境内にキッチンカーを入れ、外での遊びの提供と駄菓子屋、多少の収益確保のためにコーヒーの販売をした。正直に言って、基本計画を読んでも「わあ、松戸がこうなっていく」というワクワク感はない。例えばスタンプラリーのようなもので点在する里やまグループの活動場所を回り繋ぐことでアクションを起こせるのではないか。計画から入るのではなく、プロジェクトの先に、実は「緑の基本計画」だったという見せ方もあり、それが「全て」でなく「一部分」でもよいのではないか。松戸市の図書館では読んだ本を「こども読書手帳」に記録することができるが、里やま応援団でも子どもにも大人にも興味がそそられるような取り組みがあるといい。

委員

面白いのは、普段お寺のイメージに無いものを持ってきて空間に色付けをしたことであり、これまでの既成の概念を超えたもので色付けすることはワクワクできる。実際のリアルな素材を出しながらも何ができるか検討していく。

委員

以前実施したアンケート情報から各団体が保有している知識、スキルなどのデータを整理して、各団体の困りごとを出し合い、それらをマッチングさせることでそれぞれの団体の関係性が見えてくる。そうした作業をすることで一つ二つプロジェクトが出てくれば、発信するリアルなコンテンツが見えてくるのではないか。

基本計画と連動させて、みどりの団体の代表者や緑推進委員に「私のみどりのあるライフスタイル」のテーマでコメント付きの写真を一枚にまとめてもらい、それをコンテンツとして配信していくことは面白いのではないか。

委員

最近、松戸市でもシティプロモーションとしてライフスタイルブックをつくっている。

委員

HP をつくるのが難しいこともあり、松戸里やま応援団で HP を持っているのは「囲いやまの森」くらいが現状。

「千葉里山カレッジ」の平成 27 年のボランティア養成コースとリーダー養成コースの修了生は、フラワーコーディネーター、養蜂、観光業、会社員、大学生、大学の助手などのタレント揃いで、修了後に OPEN の Facebook 「ちば里やまピープル」と、個人情報を含んだ CLOSEDE の個人情報が入った「ちば里山ピープルグループ」を立ち上げ、そこに周辺の友達になった人が入ってくる。OPEN ではプラットフォーム状になっていて友達申請が増えている。そこには「うちの竹を見に来て」「棚田を見て来て」の誘いにメインの修了生メンバーとその周辺の友達に参加し、その情報でまた拡がりが出てきている状況が続いている。立ち上げ時には管理者が千葉県内各地を訪れて情報を集めたり、友達になったりをしてきた。プラットフォームをつくるのは大変だが、その後集まった参加者によって情報は拡散し、その集積は大きく Facebook の可能性は大。

委員

これまで部会はみどり関連のメンバーだったが、今期終了までにみどり以外の参加者を入れて行いたい。事例も見えるようにしたいし、情報伝達の受け取る側の意見も聞きたい。例えば子育て中の親に「あなたにとって大事なみどりとは？」を聞いても反応はないと思う。イメージとして捉えているだけで、実際の「ライフスタイル」の中でどう関わっているか実感できていない。

会長

一般の人は「みどりと暮らすライフスタイルとは？」と問われても、ライフスタイルは難しく、自分の生活範囲の中のライフスタイルでしか分からない。「今思うみどり」という視点と、「こんな価値がある」「こんな暮らしがある」に気付いてもらうことが必要で、それをプロジェクトベースで見せることで、「こんなことができる」「こんなことなら手伝える」という、今あるところからはみ出したところに拡がり、自分の世界からちょっと飛び出したところに面白い世界があることが伝えられる。

委員

以前読んだリポートに、サラリーマンの生活の中の「みどり」の認識は自宅から駅までの区間に限られているとあったが、自分の生活と非常に関わりがある通勤区間や江戸川沿いのランニングや散歩をする間に見える「みどり」の切り口の調査は興味深く、そこから拡がっていけばよい。

委員

公園緑地利用学の授業で、毎年学生に「どんな公園があったらいいか？」と問いかけている。半分位の学生が「みどりが多い公園」と答えるものの、特に緑を志している学生ではなく、年に 1 回くらいしか公園を利用しないリアリティのない空想の公園利用者であっても、前述のように身近な「みどり」はあるので、情報による気付きは与えられる。

プロジェクトは、先ほどのキッチンカーのような既存のものに違うものを乗せる話のように、今やっているプロジェクトに違う団体活動を乗せるくらいの小さなイノベーションを起こし拡げていくことがスピード感もあり現実的だと考える。

委員

炎天下で子どもを遊ばせるとき、木陰をつくる樹木の有無が公園選択の要素であるように、お母

さんたちの会話に「みどり」の意識は感じられる。生活空間の中で「みどり」の意識にどのようにヒットさせるか、まずはそこからか。

母親の介護のちょっとした合間にキッチンカーを見つけ、はじめてお寺の境内に入ってきた人がいたが、対象が誰であれ、キッチンカーや桜の花や他の何かをきっかけに、普段立ち入らない場所に入ることがある。

委員

任期満了までの1年に、「見える化」と同様に「スモールモデル」をつくる道筋をつくりたい。周りで動いているものは多いので、ニュース、トピックスとして集め生かし、そこから軸となるものを見出したい。

会長

基本計画には「プラットフォーム」をつくって市民力を拡張する将来の方針が大きく位置付けられ、サロン部会での議論も「プラットフォーム」を将来に向けた目標としているが、そこに行くために、今期と次期、プラス α で何ができるかを残された1年で議論し、最終的に目に見える形のものにしていくことが大事。

委員

先ほどのメディアの話のように、入口をどこにするかでプロセスが変わってくる。多様な「みどり」であるがゆえに「何でもあり」になってしまわないよう、ある程度のフィールドに限定し視点を設定する。プロセスは一本ではない。

会長

学生が卒論を書くのに議論や本を読むだけでは研究が進まないことがあるが、現場に行って話をして戻ってくる「行ったり来たり」のプロセスを経ることで目的にたどり着けると指導している。ラフな目標の中でも現場に行ってデータを集めてみて、それを吟味することで目的にたどり着く。

これまで「緑の基本計画」のプラットフォームの議論はしてきたので、これからの1年、あるいはプラス2年の3年はリアルなプロジェクトや構想の中で考えていきたい。

- ・ライフスタイルでの気づき。
- ・「みどり×まちづくり」「みどり×子育て」で異分野との交流。
- ・「フォーラム」の「まちづくりの人呼んでくるバージョン」の実現。

この3つで、実際に動けるようなことを考えていってはどうか。

委員

部会で以前から話をしているが、「原っぱ」の中で、何らかのつながりのある複数の子どものグループがそれぞれに遊んでいるが、その中のひとつがリーダーシップを執り始めることで全体が同じ遊びになるように、別々の志向を持っている流動的なグループが「原っぱ」に集まりクラブハウスができ、つながってコミュニティーになっていくイメージが当てはまる。

委員

私は松戸市の街路樹や公園のみどり、江戸川沿いの活性化について関心があったので緑推進委員会に参加したこともあり、委員各々が具体的に注目や関心ある分野毎にグループをつくり検討する方法で進められないか。松戸市だけでなく他市のことも学びたい。

会長

緑推進委員会は本会と小委員会と部会で構成されている。小委員会は委員会のメンバーにより

構成され、これまでは活動報告書の作成や「市の木、市の花、市の鳥の制定」のように諮問に対する答申の原案づくりを行ってきた。また部会には推進委員会で認められた委員以外のメンバーも加わることができ、これまでは新しい試みを実際に動いて施策に反映できないかを検討してきた。これは松戸市緑推進委員会の大きな特徴で、「里やまボランティア入門講座」は部会が企画・実施し平成15年から継続しており、講座修了者は現在里やまで活動している。また花壇づくりネットワークも部会の検討からはじまり、今も活動している。緑推進委員会は部会でそのような活動をして仲間を増やしてきたが、緑推進委員会に関係なく有志を集めて活動をするプロジェクトの提案の実現方法はあると思う。今の提案がどこまで実現に至るかは難しいと思うが、残り一年の部会やサロン部会での検討事項とすることについて意見はないか。

委員

これまでも、やりたいことをこの場で提案し、ここで指摘を受けまた戻るやり方を行ってきた。私たちはこれまで個々で活動を行ってきて、その活動を委員会とクロスオーバーさせている。例えば「緑のネットワーク・まつど」では会員の会報である「緑ネット通信」をつくっているが、近隣市の里やま活動状況のレポートの必要性を感じ、千葉市の情報をもらったことがある。

会長

自分も含め勉強の必要性を感じている。ステップアップ講座でもやっていたが、委員が松戸市内だけでなく外に出かけ森を守る苦労話を聞くことも大切だと思う。委員から話があった小田原市の活動や、度々話が出ている町田市の薬師池公園の見学など外での勉強会を以前提案した。街路樹についても、基本計画に将来の方針を書き込んでいるが、他自治体では街路樹の魅力アッププランをつくっているところもあり、外に踏み出すことも必要。

委員

柏市では「カシニワ」は空き地の利活用が元々のテーマだったようだが、お寺にキッチンカーを持ち込んだのもそんな意図で、すぐ近くに見るべきものがあれば見に行った方が良い。これまでの具体性のある意見の中で可能なことを羅列するのもプロジェクトとなるので部会で揉んでみる。

会長

重要なことは、

- ・ターゲットやコンテンツ、メディアを絞った情報の収集・発信、それを基盤にした「リアルなプロジェクトベース」の展開をする。
- ・気づきや「みどり×○○」のように、今あるものに何かを掛け合わせイノベーションを起こす。
- ・「緑の基本計画」が改定され、実際に行動するということ。
- ・行動や成果が見える化すること。

計画案には様々な施策やビジョンが載っているが、重要な部分はどこか。

事務局

基本方針④「みどりのあるライフスタイルを楽しむ」で、「憩」「食」「動」などの項目ごとに、こんなライフスタイルが可能だというイメージが書いてある。ここから「リアルなプロジェクト」のヒントが浮かぶのではないか。

委員

「どうしたらパブリックコメントに関心を持ち、見てもらえるか」の意見について、今回は同時期に「都市計画マスタープラン」や「子育て」などのパブリックコメントの実施が重なり期間も

短い。イベントで知らせようにも相次ぐ中止で目にするきっかけがつかめない状況下、いきなりではなく、パブリックコメントの実施前に基本テーマである「みどりと暮らす。松戸に暮らす。豊かに暮らす。」が随時目に付くようにする方法はないか。またコメントがあれば自身のこととして捉えられるようにしたい。

委員

身近でプレ発信して、継続することにより刷り込み効果を狙いたい。

委員

市役所の動画チャンネル、YouTube に出現させる。

委員

HP に概要・概略などは出せないものか。

事務局

パブリックコメント前に計画の中身を出すことは難しい。先ほど、里やまカレッジで Facebook をつくっているという話があったが、「みどりと暮らす。松戸に暮らす。豊かに暮らす。」をテーマにして、皆が自身のライフスタイルを載せることはすぐにでき、広がっていくのではないか。

委員

Facebook を立ち上げた「緑のネットワーク・まつど」と「里やまカレッジ」をつなげる要望はあるが、その方法は可能ではないか。

事務局

ネットに載せるのは基本計画の中身ではなく、テーマだけでいいのではないか。

会長

それはプロジェクトの第 1 号にもなり得る。

時間の都合もあるので、議事はここまでとする。

— 傍聴者退室 —

連絡事項等

事務局

コロナ禍であり、今年度も多くのイベントが中止になっている。

・オープンフォレスト in 松戸(5月) ・みどりの再発見ツアー(4月) ・花づくり講習会(毎春)

オープンフォレストについて

会長

本当はコロナ禍のこの季節にこそみどりが求められていると思う。5月は中止ということになったが、オープンフォレストが「森を開放しひとに来てもらう」がコンセプトであれば、私自身、今後、状況が良くなれば開催はできると思っている。

「ちば里やまアワードの記念講演会」について

委員

9月25日(土)市民劇場(160人入場可)で記念講演会とシンポジウムを開催予定。

事務局

次回委員会は7月下旬の予定で調整し、決定次第連絡をする。

会長

これをもって本日の委員会を終了する。